

企業名： 持田製薬

レポート名：持田製薬の見える資産と将来性

1. この会社が目指す姿が理解できるか

私は持田製薬が目指す姿が理解できる。それは企業理念にあるように「絶えず先見的特色ある製品を開発し、医療の世界に積極的に参加し、もって人類の健康・福祉に貢献する」ということだ。中堅企業として、他の製薬会社が踏み込まないような領域で、独創的な新薬を開発し、医療・健康ニーズに応えながら他の会社との差別化を図り地位を確立している。また、持田製薬の人類の健康・福祉に貢献するという言葉は、製薬の世界だけに限っていない。持田製薬は独自に「持田製薬行動憲章」を定め、持続可能な社会の実現に貢献できるように取り組んでいる。実際、CO₂排出量は年々減少しており、エネルギー使用量も微量ではあるが減少している。また、産業廃棄物の排出量も減少しており、そのうちの99%以上がリサイクルされている。他にも様々な環境対策を行っており、環境の悪化による人々の健康リスクを抑えるために努力していることが十分に伝わる。

ただし疑問が残ることがある。それは研究開発費が急激に下がっていることだ。2021年3月期の研究開発費は、2017年3月期のその約3分の2となっている。絶えず先見的特色ある製品を開発することで独自性をもっていたが、その開発費用が減少したことで今後現在と同じ地位を保つことができるのか、独創的な製品を開発することができるのかは疑問が残る。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

私は持田製薬の競争優位性が理解できる。1990年に発売した「エバデール」がイヌイットの人々の食事と健康に注目してできたように、持田製薬は徹底した調査をもとに新薬を開発してきた。他の製薬会社とは違う領域で勝負をしてきた。現在は、高脂血症や高血圧症などの生活習慣病の治療を中心とした「循環器領域」、妊娠にかかわる診断薬などの「産婦人科領域」、抗うつ状を中心とした「精神科領域」、大腸炎や慢性便秘症の治療薬などの「消化器領域」の4つの領域を重点領域としている。いずれの領域でも主力の薬をもっており、医薬品業界全てで戦うのではなく、中堅企業としてターゲットを定めてマネジメントをしており、この4分野に限っては競争優位性があると判断できる。また、これらの領域、特に精神科領域は近年需要が高まっており、十分評価できる企業戦略だといえる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

私は持田製薬の競争優位性に持続性があるかについてははっきりとした答えを述べることはできない。なぜならば持続性を感じる点と感じない点があるからだ。

私が持田製薬の競争優位性に持続性を感じた点は、先ほど述べた通り将来性のある4つの領域に集中して運営しているということだ。持田製薬がターゲットとして定めた4つの領域は将来性があり、かつその領域一つ一つで勝負できる製品をもっており、近年も新しい薬の開発に成功した。また、日本の政府が医療費を抑えるために薬価の引き下げを進め、医薬品業界全体的に低迷が予測されるが、多くのメーカーが海外メーカーと技術提供や技術買収を行い業界再建に努めている。持田製薬も多くの海外メーカーとアライアンスを活用したグローバルな展開をおこなっており、十分他のメーカーと戦えると思う。

私が持田製薬の競争優位性の持続性を疑った点は、これも先ほど述べたが、研究開発費が急激に減少しているという点である。この要因の一つに新型コロナウイルス感染症の影響による症例登録の遅延などが挙げられていた。開発費が減少したから新薬開発が難しくなるという単純な論理ではあるが、創薬の成功率は2～3万分の1と言われているように、医薬品業界は研究開発が非常に重要である。まして、持田製薬のように独特な薬を開発してそれを主力商品として売っている企業はなおさらである。そのためには莫大な研究開発費が必要であり、その金額が減少した持田製薬に将来競争優位性が保たれている保証はないと考える。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

私は、もしこの会社に入った時、自身の人的資本の価値向上を達成できると思う。持田製薬は人材育成のために、職種に合わせた教育体制が充実している。様々な研修を通して自身の知識を深めることができるだろう。また、座学だけでなく、自己啓発支援制度として自立した社員の育成やチャレンジする風土の醸成を目的に多くの取り組みがなされている。

その他にも、会社の理念、立場が自己スキルを高めてくれると思う。最初にあったように持田製薬は人々の健康・福祉のために様々な努力をしてきた。環境に配慮するように働くことが会社に根付いているため、仕事をするとき常に環境に配慮して行うことができると思う。また、業界全体で見て独特な立場に位置する持田製薬で働く社員のモチベーションは高い水準で保たれていると思う。人の役に立つことができ、製薬研究で成功したら一気に企業価値が上がるからだ。そのようなやりがいのある会社で働ければ自己スキルは高まると思う。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

私はこの持田製薬の統合報告書はとても見やすくよくできていると感じる。あえて改善の余地を上げるとすると、専門用語が多すぎるという点であろう。私は化学の知識に乏しいため、いくつかの単語や文章の理解ができなかった。もちろん、薬の名前を把握しているのはごく一部の人に限られると思うが、化学や医療に関する一定以上の知識がないと理解できないような場面にもいくつか遭遇した。そのような知識が乏しい人々もこの資料を見る機会が多くあると思うので、注意書きや※などを使ってわかりやすく説明を付け加えてほしい。

いと感じた。また、全体の見やすさや図表や絵の配置は素晴らしいと感じた。